

## 安全対策連絡協議会の開催

平成28年8月2日  
在シンガポール日本国大使館

7月29日、バングラデシュにおける邦人殺害事案発生に伴い、大使館において「安全対策連絡協議会」（大使館と在留邦人側（日本人会、JCCI、学校関係、運輸・旅行関係及び政府系団体）代表との双方向的な意見交換・情報交換の場）を開催したところ、その概要は次のとおりです。

### 1. 「安全対策連絡協議会」開催の趣旨

7月1日、バングラデシュのダッカにおいて、7名の邦人を含む約20名が犠牲となるテロ事案が発生しました。日本人が海外でテロ事案に巻き込まれるリスクがこれまで以上に高まっています。ダッカで発生したテロ事案では、①身代金の要求が無かった、②外国人、イスラム教徒以外の人が狙われた、③外国人に安全と思われていた場所で発生したという特徴がありました。現在では、何処だから安全と言い切れなくなっている状況です。

このような状況の下で、少しでもリスクを小さくするために何が必要か等について、出席頂いたそれぞれの組織において、これまで行ってきた安全対策等や今後の備えについて意見交換を行い、安全対策、知見、工夫を共有するために開催しました。

### 2. 「最近のテロの状況」について、大使館より次のとおり紹介しました。

(1) 2013年にはアルジェリア、2015年にはシリア、チュニジア及びバングラデシュ、2016年にはバングラデシュと邦人が被害に遭うテロ事案が発生しています。最近のテロ事案の特徴として「過激化」及び「シリア等の戦闘地域からの帰還兵」が関与したということが注目を集めています。

また、フランスのニースで発生したテロ事案のように、攻撃手段としてトラックを用いるなど、必ずしもテロ組織が爆発物等の技術的な能力を有しなくてもテロ事案を起こすことが可能となっています。テロ組織の目的は、過去に日本赤軍等のテロ事案に見られた「身代金の要求」、「収監されているメンバーの釈放」等ではなく、単純に「殺害」であるケースが目立っています。

(2) シンガポールは、周囲をマレーシア、インドネシアに囲まれています。特にインドネシアにおいては、今年の1月に首都ジャカルタでテロ事案が発生しました。近年収監されていたJIメンバーの釈放、戦闘地域からの帰還兵、ISILのオンライン機関誌の発刊とテロ事案を増加させる事象が発生しており、シンガポールにおいてもテロの脅威に一層の注意を要する必要があります。

また、シンガポールでは、昨年は27名、今年は8名のバングラデシュ人が国内治安法により拘束されるなど、テロの脅威とは無関係では無いと思われます。また、マレーシアとは陸路で、インドネシアとはフェリーを通じた往来が容易なため、これらの国からテロ組織がシンガポールに侵入する可能性

を否定することはできません。

3. 出席されました在留邦人側代表より発言のありました主な「安全対策の実施状況」は以下のとおりです。

(1) 普段の安全対策

- 「たびレジ」登録の義務化
- 外務省海外安全情報による情報の入手
- 外部コンサルとの意見交換
- 連絡網の整備及び連絡網を使った訓練（連絡がとれない等を想定したシミュレーションの実施）
- 会員の E-mail アドレスのアップデートを実施
- LINE を活用する等電話以外による緊急連絡の実施
- 空港での緊急時を想定した机上でのシミュレーションの実施
- 警備員の増員
- 学校施設の門の開閉、通学バスの定期訓練、避難訓練、情報提供、地元警察によるパトロール強化の申し入れ及び教員の休暇の際の日程表提出の励行
- 赴任前研修の実施、海外拠点危機対応マニュアルの整備
- 通り一遍の研修では無く考えさせる研修の開始
- 大使館との連携

(2) 出張等の際の安全対策

- 出張先の国の本邦企業（商社等）及び大使館からの情報入手
- 滞在先政府からの情報入手
- フライト情報報告の励行（休暇で国外に滞在する場合は、スケジュール等を封筒に入れ、何か起きた場合に開封し確認するなどしてプライバシーを守るようにしている）
- 出張及び休暇での海外滞在時の連絡先等の連絡の励行（事前にスケジュール及び宿泊先等を主張先の担当者に連絡する）
- 宿泊ホテルの選定に当たっては、インドネシアでは欧米系ではなく地元系のホテルに宿泊することを励行

4. 主な質疑等は次のとおりです。

(1) Q：シンガポールでの実際のリスク情報の有無について。

A：現時点では個別具体的なリスク情報には接していません。しかしながら、それをもって安全と決めつけることはせず、日頃より情報収集するなどして安全対策に万全を期してください。

(2) Q：出張の際にリスク回避のため、5つ星以上のホテルに宿泊するようにしていますが、この対応でよいか。

A：対応の仕方は、場所、地域にもより変わりますので一概には言えませんが、外国人が狙われ

やすい地域等であれば、比較的外国人が集まらず、警備のしっかりとしたホテルが望ましいと考えます。他方、5つ星以上のホテルは概ね警備もしっかりしていると思われませんが、重要なことは現地の情報を収集することですので、出張の際は現地情報を収集し安全対策に備えてください。

(3) 緊急連絡網についてですが、これまで連絡は携帯電話でおこなっていましたが、今後、LINE等のSNSを利用することを検討しています。また、SIMカードの入れ替えにより電話番号が変わることも想定した対応も考えることが必要と思われる。

(4) 緊急連絡網を使用した訓練は是非実施することをお勧めします。訓練を実施することで、何が問題なのか、どうやって問題点を是正するかが見えてくるので是非実施することをお勧めします。

5. 当日席上配布した資料は以下のとおりです（内容は各リンクからご覧ください）。

(1) 海外旅行のテロ・誘拐対策

[http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph\\_03.html](http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph_03.html)

(2) テロの特徴と対処方法

<http://www.sg.emb-japan.go.jp/files/000181016.pdf>

(3) 世界で広がるイスラム過激派組織等によるテロ事件等

中東・北アフリカ地域における主なテロ事件

<http://www.sg.emb-japan.go.jp/files/000181019.pdf>

6. なお、海外安全ホームページの『海外安全パンフレット・資料』  
<http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph.html> から、以下のパンフレット等がご覧  
になれますので、ご活用ください。

「海外安全虎の巻」

「海外赴任者のための安全対策小読本」

「海外へ進出する日本人・企業のための爆弾テロ対策 Q&A」

「海外における脅迫・誘拐対策 Q&A」

「海外旅行のテロ・誘拐対策」

「海外へ進出する日本人・企業のための CBRN テロ対策 Q&A」

7. 在留邦人の皆様におかれては、安全確保のためこの機会に改めて以下の点の再確認をお願いします。具体的には、

(1) 情報収集（安全の手引き、外務省 HP、海外安全 HP、大使館 HP、各種報道等）を行う。

(2) 危険な場所へは行かない。

(3) 仮に危険ではない場所でも、一般的な注意は怠らない（『目立たない』『用心を怠らない』『行動をパターン化しない』は安全対策の3原則）。

(4) 『在留届』提出の励行、『たびレジ』の登録・活用する。

- (5) この機会に『緊急連絡先』や『緊急連絡網』の再確認を行う。
- (6) 『連絡手段の確保』『所在の明確化（家族、同僚に対する）』の確認を行う。

以上